



かえで通信

ご挨拶

桜のつぼみがだんだん大きくなり、春の息吹を感じる今日この頃となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。春が近づくにつれ、昼と夜の寒暖差が大きくなって参りますので風邪などお召しにならないよう体調管理に十分お気をつけください。

さて、先月の25日から平成31年第1回各務原市議会定例会が開催されました。今期定例会では、平成31年度予算をはじめ55の議案が上程され、一般会計では488億円となる過去最大の予算規模となっており、全ての議案が市民ニーズに応えているものなのか慎重に審査しなければなりません。

また、今年は平成27年に策定された10年間の総合計画も5年目を迎え、加速的に進む少子高齢化・人口減少、AIやIOTなど急速な技術が進む昨今において、今後この総合計画が、これからの5年間の羅針盤になり、さらに各務原市の10年、20年後を見据え、市民の皆さまのニーズに答えているものか再点検が必要です。皆さまの貴重なご意見やご要望、ご提案を承り、今期定例の審議や後期総合計画にしっかり反映させていただきたいと思えます。

今月も「いつまで住み続けたいまち、かかみがはら！」にむけ邁進して参ります。何卒宜しくお願い申し上げます！

各務原市議会議員 大竹 大輔

市政を問う！平成30年12月議会では次の一般質問をしました！（前回の続き！）

空家対策について

空き家対策の市民への更なる周知は？

- ① KOC（かかみがはらオープンクラス）をDIY型空き家リノベーション事業の家主も活用できる方法を検討してはどうか？ ※1

KOCでは、市内の不動産、工務店など17事業者からなる「住まい相談サポーター」などから市内不動産情報の提供を受けている他、毎週土曜・日曜・祝日には、サポーターによる住まい相談窓口が開設している。住まい相談サポーターへは、家主の方からの不動産活用の相談もあり、DIY型空き家リノベーション事業など幾つかの事業を組み合わせることで、家主の方にもKOCを活用しやすくなることを考えている。

- ② 各市民サービスセンターでも空き家対策の窓口を設置してはどうか？

市民サービスセンターでは、エリア担当職員を配置し、地域課題や市民ニーズを把握することで行政とのパイプ役を担っており、地域の空き家等に関する相談を担当部局へ取り次ぐ業務を行っている。専門的な職員を配置することはできませんが、DIY型空き家リノベーション事業を含めた空き家等に関する相談に対しても、内容に応じた適切な関係部局をご案内していく。

本市の空き家を市内外の企業にも活用してもらう考えは？

企業による空き家活用ということも有効な空き家対策の1つであると考えているが、その実現に当たっては、空き家を事務所や商業施設として企業が活用することによる周辺住民への生活に対する影響のほか、地域性や法制度上の立地条件など、検討課題も決して少なくない。様々な課題があるが、これまでにないビジネスモデルを持つ企業や地域に密着したユニークな取り組みを行う企業を呼び込むきっかけともなるので、企業の方に向けた空き家の活用を検討していく。

※1 イオンモール各務原 専門店街2階にある各務原市が運営する移住定住総合窓口。